

第6回岡山市男女共同参画専門委員会要旨

- 1 日 時 平成28年11月8日(火)午後3時00分～
- 2 場 所 岡山市役所議会棟3階第1会議室
- 3 出席委員 高田委員長、貝原委員、寺尾委員、土井委員、原田委員、松井委員、光岡委員、日笠委員
- 4 出席職員 小野市民協働局統括審議監
(女性が輝くまちづくり推進課) 光藤課長、石原課長補佐、高村主査、植木主任、佐藤主事
- 5 傍聴者 1名
- 6 議 事
(1) 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準について(報告)
(2) 「第4次さんかくプラン」策定について
(3) その他
- 7 配布資料
資料1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の運用に係る審査票(第19条第3項運用基準適用)【介護認定審査会】
資料2 第4次さんかくプラン(案)
資料3 第4次さんかくプラン一覧(案)〈体系+数値目標+成果指標〉
資料4 主な修正点
資料5 再度専門委員会の審議が必要なもの
資料6 ワークショップでの主な意見
- 8 会議の状況
議題1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準について(報告)

事務局より報告

○介護認定審査会 調査票H28-7

- ・委員定員数1名増員 女性の推薦あり 女性比率が36.0%から36.3%となり、0.3%上昇した。

議題2 「第4次さんかくプラン」策定について

主な意見

■基本目標Iについて

○「妊孕性」について

- ・妊孕性についての説明の中の「人生にはいろいろな選択肢があり、正しい情報に基づき自身の意思をもってライフプランを考えることが大切です」を太字で強調したらいい。
- ・この時期でなければいけない、そこまでに結婚して子どもを産みなさいではなく、それぞれの考え方でいろいろな生き方ができるところを太字で書くことで捉え方が違うと思う。
- ・正しい情報に基づき、自身の意思をもってライフバランスを考えてもらいたいというところが一番大事である。
- ・上に書かれている「理解を促進します」というと少し大掛かりであるが、それを選ぶのは自分であるという説明があれば違和感を持っている人にも馴染むと思う。
- ・女性の体のことを思い、産まない決定をした人、結婚しない人、結婚しなくても産む人など、いろいろな生き方の一つとして妊孕性があることを理解していただきたい。

○DVの表記について

- ・暴力の問題にDVとあるが、今新たに問題になっているストーカーや性暴力についての記載がない。全体を見たときに、DVなどとなっているが、おそらく国も「など」を入れることにより幅を広げたことになっている。
- ・デートDV＝ストーカーというところもあり、子どもを含めDVや性暴力の相談をさなかく岡山では受けているが、文言の中にないのはどうなのか。
- ・「など」としてしまうのか、どのように入れていくのか考えないといけない。

■重点目標Ⅱについて

○「国際的な取組についての理解及び協調、連携」について

- ・Ⅱ-5-(2)-③の外国人の意見が反映される市政運営は大事であるが、数値目標と成果指標があまり関連していないように感じる。具体的な数値目標や成果指標があればいい。ジェンダーという言葉の認知度や、岡山に住みたい外国人の割合だけでは反映されていない。
- ・外国人市民会議の中での市政への提言で意見があったことに対して、各課が協力、支援した割合を計るのはどうか。
- ・外国人市民会議で、男女共同参画に対して出た意見をどう取り進むかをこの委員会で取り上げてはどうか。
- ・岡山に住んでいる人に友好交流サロンがもう少し使われるようになればいい。岡山に住んでいる異文化の人にとって、友好交流サロンが入っている西川アイプラザが、一番身近で行きやすい場所になればいい。
- ・異文化の人達が積極的に参画できる場所、機会を持つことは大事である。
- ・様々な人の意見が反映されることが必要。外国人市民も一緒に情報交換をする。「支援」は一方的なので、この言葉が外れたのはいいと思う。
- ・数値目標、成果指標に交流サロンの情報や参加なども追加してはどうか。
- ・公民館も交流を含めたいろいろな講座を持っている。岡南公民館などでも活発にしている。数値も出るのではないか。
- ・具体策の中に外国人の意見が反映される市政運営となっているので、それをもう少しわかりやすくできればいい。
- ・外国人の町内会加入率を指標に挙げるのはどうか。
- ・女性が輝くまちづくり推進本部での意見に対する対応案でいいと思う。細かく分けて対応ができなくなると、計画として意味がなくなる。

■重点目標Ⅲについて

○子育て・介護における「地域」の表記について

- ・具体的な支援策としていろいろな困難を抱えている人を、地域の中でどうサポートしていく

かということがある。子育ては、全体でというよりもまずは地域の中からだと思う。この地域という言葉は大事である。地域の中でサポートを受けて子育てしていくほうが、具体的に見えてくる。

- ・子育ても介護も地域が核になる。市民からしたら、地域が主体となり中心となる。
- ・まずは地域からという感覚であれば、入れた方がいい。
- ・地域皆で、どんな政策があり、どう子育て支援をしていくかが大切である。
- ・地域という言葉が必ずどこかに強調されているのが今の動きだと思う。
- ・計画として市民が身近に感じるのは、地域の中でどうサポートされるのかである。
- ・「地域」があるのとないのとで、施策に対してあまり意味が無く、所管課が特別重視するような意図がなければ、地域を残すことで進めていただきたい。

○第2章P17成果指標一覧7「仕事と生活の調和の促進」の定義の「3歳児」の表記について

- ・なぜ3歳児の親に限るのか説明しないとこの文章ではわからない。
- ・3歳児健診の時に数値を取っていると注釈をつけたほうがいい。

■計画体系図基本目標の「性別にかかわらず」について

- ・大きな目標にあっても、一つひとつの施策はそこしか読まれない。基本目標Ⅲだけにあると違和感があるのであれば、大きなところにあるからⅠ、Ⅱ、Ⅲの基本目標に無くてもいいのではなく、本来ならば一つひとつの頭につけるべきである。
- ・議論の中で基本目標Ⅲだけにした経緯がある。重要であるから重複しても元に戻して全部入れるのはいいが、第3次から変えた経緯があるのに、もう一度もとに戻すことが疑問である。
- ・何のためにさんかくプランがあるかと言うと、まだまだ性による差別や不平等がある中で、性別に関わらず市民一人ひとりの個性が輝く共同参画、自分らしい生き方ができるということであるが、性別による違和感がある社会なので、このさんかくプランがある。大きな目標にあるからと言っても、一つ一つの施策はⅠ、Ⅱ、Ⅲでできているので、残したほうがいい。
- ・「性別にかかわらず」というのが一番重要なので、全部に入れたほうがいい。
- ・一部だけにあると、いろいろな読み取り方をされるので、特に重複しても問題ないのであれば、明確にする意味でも全てにつけたほうがいい。

■その他

- ・第1章、第2章の項目順について、第1章の5「現状と課題」を第2章の「計画の体系図」の次に持ってきてはどうかということについては、今の現状や社会情勢を踏まえてどのような考え方で計画を作るかということで目標が出てくるので、現状のままでもいい。
- ・第1章、第2章の項目順は特にこれで違和感がない。
- ・第1章P6「婚姻状況」について、現在は未婚率があるが、婚姻率、離婚率もない。離婚の状況もあれば、婚姻の状況も把握できる。
- ・合計特殊出生率とは、どのようなものか。
→一人の女性が生涯で産む子どものこと。注釈を入れる。
- ・合計特殊出生率には年齢も入れて欲しい。実際は50歳以上の方も出産されているが、データには49歳までの人しか入っていない。何歳から何歳までと年齢を入れるほうがわかりやすい。
- ・全体的に読みやすく、図も見やすい非常に質の高い内容になっている。
- ・中高生にも読んでもらうために、難しい漢字にはルビを振って欲しい。
- ・今、活躍を含め育児や、子育て支援も、事業者が理解しないと進まないで、計画理念⑦に「事業者」という言葉があることはよいと思う。
- ・次回からでよいが、計画の位置づけで、男女共同参画社会基本法、DV防止法、女性活躍推進法とあるが、これに加えて児童虐待防止法も入れることを検討してはどうか。DV防止法と児童虐待防止法はリンクしていて、子どもに影響がある。

議題3 「その他」

次回日程について事務局より説明。